

H.30
(2018年)

四月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

一番分かつてゐようで、一番分からぬ此の私

鏡が無いと、私の顔は見えません。人間は幼い時から親に躾けられ、多くの人・先生に教えられて育ちました。が、自分一人で大きくなつたと思う人は『教えられずに出来るようになつた事は何一つ無い』とは考へません。また、自分に分からぬものは受け入れないのが、人間の『知（識）』です。が、癌などの病気になると生き方が変わります。この時、『仏様の働き・力の御陰で生かされている私』と目覚めると、(極楽)浄土に出遇えるのです。

地獄・極楽(涅槃)は人の心にあり(諺)です。正信偈に『不斷煩惱得涅槃』|| 悪み・欲を消さなくとも気楽になれ』とあります。佛教は、『できない事は無理しなくても良い・今できる事を力一杯しなさい』と説きます。親鸞聖人は『人の努力を最大限に生かす力が本願(他力)』と。また、『今の生活の場が極楽浄土(非常に樂・争いを水で洗い流した世界)だつた』と、私が目覚め・氣楽な日々を送れるのを『現生正定聚』と説かされました。

主な参考資料

3月号(真宗大谷派・難波別院)。

- (1) 門脇 健(著)『淨土にて待たれる・2月10日晚天講座抄録』月刊・南御堂新聞・2018年
- (2) 黒田 進(著)『呼びかけを聞く』・ばけつと法話集、真宗文庫、P.10~14(2016年)。
- (3) 伊奈祐諦(著)『他力に生きる』・花すみれ・真宗大谷派・婦人会、P.2(2018年3月号)。